

平成30（2018）年度

## 第一回 吹田市立博物館協議会

### 議 事 録

日 時 平成30（2018）年6月1日（金） 午前10時00分～午後0時10分

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 一瀬・村田・橋爪・伊藤・佐久間・矢田・瀬尾・内山・岩崎・齋藤・喜田・八代委員

【1 開 会】 藤井副館長（出席状況の確認）

\*欠席 玉置委員

\*出席委員数は全委員13名の過半数を超えており、本会は成立しています。

【2 挨拶】 中牧館長 挨拶

【3 新委員の報告と自己紹介】 （資料P1 委員名簿参照）

\*広瀬委員に代わり齋藤委員、大森・浦田委員に代わり矢田・瀬尾委員、  
辻本委員に代わり八代委員。

\*全委員からの自己紹介。

【4 職員の異動】 報告と自己紹介（資料P2 博物館組織図・職員配置図参照）

\*市村学芸員に代わり河島学芸員、非常勤職員・福田に代わり藤原。

【5 議長・副議長の選出】 議長；一瀬委員 副議長；村田委員

【6 傍聴報告】 傍聴者なし。

【7 案件（1）事業報告（平成29年度後半～）】

（議 長）案件（1）事業報告（平成29年度後半～）について、事務局より説明をお願いします。

\*事務局より説明。

（議 長）（1）事業報告（平成29年度後半～）について、ご質問ご意見はありませんか。

（委 員）博物館は年々古くなっています。致し方ないことだが、燻蒸や虫・カビの調査をしていただいていることで、経年の変化で思われていることはありませんか。

（事務局）燻蒸は、平成29年度に2回実施しております。また、空気中のカビなどを調べる環境調査につきましても、年に2回実施しております。特に有害な虫が多量に発生するなど問題はありません。燻蒸につきましては業者にお問い合わせをしておりますが、特に報告はございません。収蔵庫につま

してもカビなどの発生も特にありません。

(議 長) 施設の老朽化については。

(事務局) 後ほど、事業点検の項目で報告をするつもりだったのですが、平成29年度は中央監視室の高圧受変設備の整備・交換を行いました。空調関係の冷温水発生機の大規模修繕をしました。収蔵庫は特に24時間の空調管理を行っておりますので、そちらに影響の出ないように対応してきました。

(副館長) 補足説明しますと、施設の老朽化・大規模改修は喫緊の課題。当館も市の施設として、一括しての管理となっています。担当課がそのなかで順次、優先順位の中で今後も対応をしていくものと考えています。ただ、30年を一つの目安として、大規模修繕対応となるか、担当部署と相談・協議をしながら進めていきたいと考えています。

(事務局) 昨年末に市内で大規模停電が発生した。その際、当館は対象の地域ではなかったが、非常時には発電機での対応と聞いています。しかしながら、それも短時間の対応。大きな課題ではないか。

(議 長) 施設のランニングについて。24時間空調のパッケージ交換は。今までには何回実施したのか。

(副館長) 収蔵庫の熱源に当たるチラーは、5～6年前に、一回目の交換を終えている。

(議 長) ということは25年に1回の交換ということですか。

(副館長) 何年に1回ということではなく、20年はもった、ということ。調子が悪くなった時々での対応。担当部署としては少しでも永く持ってほしい、と思っているだろうが、博物館にとっては、何よりも大事な部分と理解している。

(委 員) 収蔵管理についておたずねしたい。新収蔵庫ができたこと、新収蔵庫について何を、どんな形で収蔵したのか、書かれていないのが残念。加筆をするべきと考える。資料としても重要。

(事務局) 収蔵庫の増設については加筆します。因みに、資料管理につきましては、新収蔵庫には今まで一般収蔵庫にあった埋蔵文化財を入れております。その空いたスペースに新たな西村公朝氏の作品等を。また、西村公朝氏の作品等の搬入にともない、特別収蔵庫から一般収蔵庫へと入れ替えをしたものもございます。

(議 長) 収蔵庫の稼働率は今まで(資料に)上がってましたか。

(事務局) これまでも数字は出していません。出しようがないくらい、100～120%を越えている状況にある。棚に置くべきものが通路へ、廊下へ、一部は学校内教室へ、という状況が、この間かなり改善したという状況でございます。

(議 長) 棚に収まっている状態が100%だとするならば、今の状況を数値で表せば、改善にむけた状況・苦しさがよくわかるのではないか。

(事務局) 少し将来を見越して空いているスペースもあります。差し引きすると、普通の状況の100%になった、と理解してもらえれば。

(委 員) 入館者数の問題について。入館者数をどう読み取るか。3万人を越える数値で、これまでも中でも一・二を争う数字であり、講座等受講者数で頑張ったとは言いが、平成29年度は頑張った年であったといえるのではないか。企画展はその内容によって数値が上下することもある。重要なのは、吹田の博物館として吹田のために、やらなければいけない展覧会をやっている、と言えるのではないか。逆に言うと、講座を頑張りすぎてはいないか。

(事務局) 学芸員としては、展覧会にイベントを入れるなど常に自転車操業状態です。

(副館長) 学芸員の苦労も理解する。博物館は総入館者数で評価されることが多いが、講座等受講者数

よりも観覧者数を大事にしたい。地域の博物館として、吹田博物館にしかできない姿勢を大事にしたい。そうすると、人が来ないという現実もあるが、目標にもあるように展示によってどれだけ来館者に満足をしてもらったか、展示後、その成果がどう残っていくか、情報をどう蓄積していくかが大切と考える。

(議 長) 事業報告の比重を活動に絞って、そちらをメインにして、どういう出前があって予想以上に増えたとか、企画展にどういう感想を持たれたというような報告にできないか。

(副館長) 数字よりも、担当者の調査研究を含めた活動の部分も報告に盛り込んでいければ、ということですか。今後はそのような報告も盛り込んでいきたいと考えます。

#### 【 8 案件 (2) 事業計画 (平成30年度後期～31年度前期事業について) 】

(議 長) 平成30年度後期～31年度前期事業について事務局からの説明をお願いします。

\*事務局より説明。

(議 長) 事務局から説明がございました。何かございますでしょうか。

(委 員) 大学生による博物館実習展、予算が6万円ということだが、うちの大学・阪大でもポスターを作らせたりとか、学内にアピールするためのポスター・チラシ作りをさせている。そのあたりどうされているのか教えてほしい。

(事務局) 実習展のチラシやポスターは通常の展示とは異なり、市内の施設へ配付する程度です。実習の中で、学生達のデザインしたものを業者へ発注するなどはしていません。

(委 員) できたら、学生達に作成させて館内に貼るだけでもいいので、余裕があれば「創ってみなさい」というやり方もあるだろう。25人も学生が集まれば、できることもあろう。

(副館長) 学生達にやってもらうことも大切だが、基本的には時間が足りません。館内で掲示するくらいのは、あるいは対応できるかも知れません。ポスター等の作成についても検討していきたい。

(議 長) 河内の方の市立博物館での実習での例として、実習期間の最後にポスターができあがるという例もありますので、自分たちの展示をアピールする手段として、ぜひ取り組んでいただきたい。他はいかがでしょうか。

(委 員) P19のまなびの支援課バーチャル生涯学習について、もう少し説明をお願いしたい。併せて、平成30年度についても継続して取り組むのか教えてほしい。

(事務局) まなびの支援課が生涯学習のソフトを外へ発信していこうというものです。色々な課に投げかけ、アップしているものでございます。

(次 長) 市の生涯学習事業でございまして、一般的な講座や講習会に参加しづらい人向けに、インターネットを使って参加をしてもらおう、という吹田市のHPの中のひとつとしての「バーチャル生涯学習」です。事務局の説明にもありましたように、映像を使って情報を配信しています。現在は2本ですが、今後はもっと増やし、学ぶ機会を提供していこうという事業でございまして。

(委 員) ありがとうございます。外への発信ということでも有効なやり方だと感じました。しかし、こういうことをしているということは、あまり市民のみなさんには知られていないようなので、もう少しアピールの工夫を。

(委 員) そういうことをしている、という掲示物が博物館があればいいし、実際に博物館で観ることの出来る端末があればいいのだが。

(次 長) 周知の方法をもっと考えて参りたいと思います。本日は貴重なご意見、ありがとうございました。

(委員) 平成30年度の夏季展示として、「水から考える吹田の自然」を計画されているが、「吹田の水」で大事なものは、ニュータウン地区に開発される前の水利。市の南半分で終わってはいけない。ため池を古地図の中に入れてほしい。例えば、池から用水路が巧妙に配置されていた。佐井寺のトンネルとか。「吹田の水」という限りは、ぜひそういうことを残してほしい。

(事務局) 絵図や写真については、山田を含むニュータウンも範疇として考えております。夏季展示は子ども向け。山田地区のジオラマ等もあり、常設展示と特別展示とを関連させて、子どもにとって分かりやすいものとなるよう、現在計画しております。

(議長) 市民の方が参画する実行委員会の規模・その人数は。

(事務局) 新しい方も入れて22~23人くらいです。

(議長) まとめるのが難しい人数ですね。他にはいかがですか。

(委員) 私は山田に生まれ、山田で育ち80才になる。昔のことを知らない人が増えた。史実をしっかりと伝えてほしい。

(委員) 「古文書を読む会」の項目なのですが、個人的にはとても興味のあることで。昨年度も26人の参加者数、ということで学習会にもコンスタントに参加をされる方がいるわけで、ニーズはかなりある、と考える。しかしながら、講座となるとなかなか日時が合わないこともある。そんなとき、インターネット上で、YouTubeで講座の様子を博物館のHPで流すといったようなことは可能なのか。計画はあるのか。

(事務局) 「古文書を読む会」の登録者数は約50人。年間4回実施。新しい人が脱落しがちなため、グループ学習会を開催するなど定着への工夫をしているところです。YouTubeについて、現状では、ありません。古文書講座の内容から考えても、YouTubeのアップはなじまないのではないかと考えます。

(議長) 少し念頭に置いていただくということで。大学ではe-learningといってビデオだけ観て、という履修のやり方もある。毎回出てくることだが、岸辺駅のサテライト展示はないのか。

(事務局) 今は考えていません。新しく出来る「健都ライブラリー」と連携したものを考えています。

(議長) 駅の改札口に、ショーケースのひとつでもあれば、と考えますが。

(事務局) 5年程前、展示ケースを置くことも打診したが、JRより床面を占有することは出来ない、との回答がありました。「健都ライブラリー」には、「0系新幹線」もあり、ここを拠点として、ライブラリーと博物館との連携を計画しているところです。

(次長) 「健都ライブラリー」は、平成32年の11月ということで、少し先のお話になります。

(議長) パネルくらいは可能? せっかくなので、何度かアプローチをしていただきたい。次に、学校連携については、どうですか。

(委員) 小学校の立場から申し上げますと、「むかしのくらしと学校」展につきましては、小学3年生にとって、たいへん有難い「学びの場」となっています。博物館と学校との距離の問題もあって、36小学校全てが来館しているわけではないが、多くの子ども・教師に広げていけたらいいなあ、と考えております。また、「ぐるっとすいたカード」についても、市内の子ども達が吹田博物館で学び、大きく育ったら、また博物館へ自分で足を運ぶ、といった、そんな循環が出来ればなあ、と思っています。P3の土曜日の入館者が例年に比べ少ない、20人となっている理由は。

(副館長) 特に理由は見当たりません。

(委員) 中学校では、学習に関わって博物館と連携をする、というのはなかなか難しいもの。中学校では、職場体験と教材「歴史に触れてみよう」で連携した取り組みをこれまでも積み上げてきたところ

です。職場体験は、今年度も多くの中学校がお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。中学校教材ですが、ちょうど自分が山田中学校の教頭をしていたときに、山田版を作成していただいた。知らないことがたくさん載っていて、生徒にとっても大変興味深いものであった、と記憶している。しかし、授業の中でたつぷりと時間を取って、ということでは難しい面もあります。ひとつ質問なのですが、これは18校区で作成されるものなのか。

(副館長) 理想はそう(18校区で作成)なのですが、教材は中学校の教科書に出てくるものと、校区に関係深い歴史の双方で構成しています。そういう中身で、18校区作ることが出来るのかどうかという問題もあります。これまでは、特徴の出やすい所を優先的に作ってきた、という経緯もあり、まずは一巡したところですよ。

(委員) 是非、よろしくお願いいたします。あと一つお願いがございます。教員が吹田のことを知らない。教員向けの研修の場を是非にお願いしたい。

### 【9 案件(3) 課題討論(博物館の平成29年度事業点検・評価について)】

(議長) 案件(3)の課題討論へと進めたい。事務局より説明を求めます。

\*事務局より説明。

(議長) ご自分の担当される項目を見ていただいて、それぞれに質問があれば、とお願いしたいが、いかがでしょうか。

(委員) この事業評価は、目的としては、博物館の業務を改善するための評価なのか、博物館のパフォーマンスを市や市議会を通して市民に説明するための評価なのか。この事業評価の主眼は何なのか。

(事務局) 行政評価は別物。基本的は業務改善。あくまでもより良い博物館にしていこうというもの。前年度の総括を生かして、次年度はこう工夫した、というところを評価していくもの。評価の対話、というようなもの。

(委員) 博物館のパフォーマンスを示すものではない、とはっきりと表してほしい。このように積み上げてきた、という事実が博物館的にも大事なもの。ぜひ、一度まとめて発表してほしい。

(議長) このチェックシートへの取り組みをも含めて、まとめていけば、周りの博物館への大きな刺激にもなりますが。

(事務局) これでベストとは考えていません。ご指摘も含めて改善していければ、と考えております。いただいたコメントを、次回の協議会で議論いただいて、正式な平成29年度の事業評価として、まとめていければ、と考えております。

(議長) 一気にまとめて、というのは難しいと思いますので、次回見ていただき、分析や今後の方向性といったものを付け加えていけるよう、意見やコメントを持ち寄れたら、と思います。それでよろしいでしょうか。要約した意見やコメントを事前にいただければ、議論も進むものと思います。

(議長) ありがとうございます。これで第一回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。

(副館長) 長時間、ありがとうございました。